

平成25年度 第1回 岐阜県地方独立行政法人評価委員会（県立病院関係）

—— 議 事 要 旨 ——

1 日 時 平成25年7月12日（金） 14：45～16：40

2 場 所 岐阜県庁 4階 特別会議室

3 出席者

〔委 員〕 清島委員長、石原委員、富田委員、林委員

〔専門委員〕（県立病院関係） 金山専門委員

〔法 人〕（地方独立行政法人岐阜県総合医療センター） 渡辺理事長、富田副理事長兼事務局長

（地方独立行政法人岐阜県立多治見病院） 原田理事長、岩田副理事長兼事務局長

（地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院） 山森理事長、藤枝理事兼事務局長

〔設立団体〕（岐阜県） 川出健康福祉部長、田中健康福祉部次長、久保田健康福祉部次長、渡辺地域医療推進課長、河野総括管理監、木村県立病院・看護大学法人係長 他

**議事概要：県立病院関係** [資料2-1～2-7、報告資料イ～エ]

[議題2：資料2-1～2-7]

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター、地方独立行政法人岐阜県立多治見病院及び地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院の平成24年度業務実績に関する評価について

※項目番号については検証シートに記載のものを指す。

## **1ブロック 法人説明**

**【総セ 渡辺理事長】**

項目番号2：看護師や医師事務作業補助職員、看護事務補助職員の計画的な確保による医療体制の充実を図った。また、女性職員が継続して働きやすい環境づくりのため、24時間保育を充実させ、平成27年度の新棟開設にあたり、病児・病後児保育の実施に向けて検討したことについて、「IV」の自己評価とした。

項目番号4、5：医療機器の整備に加え、高度先進医療を支えるもう1つを「職員の育成」と考えており、当センターが目指す高度医療やチーム医療を担う技術者の育成を進めるため、各種研修・セミナーへの参加を積極的に支援したことについて、「IV」の自己評価とした。

項目番号9：当センターの基本方針の一つに「迅速かつ確実な医療の提供」をあげている。患者サービスとして、外来患者の待ち時間調査を実施し、その短縮を重点的に取り組んだ結果、平均待ち時間の短縮ができた。検査部門では平成23年度よりもMRIなどの検査予約枠を増設し、採血開始時間の繰り上げなど効率的な運用による検査件数の増加、検査待ち日数の短縮ができた。また、手術内容に応じた手術枠の弾力的な運用や手術準備期間の短縮による手術室稼働率の向上に加えて、麻酔科医の増員により手術件数が増加し、患者サービスの向上ができたことで「IV」の自己評価とした。

項目番号12：外部講師を招聘して医療安全研修会を開催し、約400人の参加があった。また、カルテの開示請求が約2割以上増加したが、すべてを開示していることから、「IV」の自己評価とした。

**【多治見 原田理事長】**

項目番号1：医療機器については、中期的な更新計画を作成して計画的に購入している。課題であった高精度放射線治療システムについては、昨年12月から機器の運営・訓練を開始して今年4月からは高精度治療を開始している。

項目番号2：放射線業務について技師を増加することによって2交代制を導入した。これにより技師の負担が減り時間外手当も削減できた。

項目番号6：クリニカルインディケータ（診療指標）を作るために、昨年、専門の委員会を作った。今年4月からホームページ上で徐々に公表を始めており、医療の質の向上を図りたいと思っている。

項目番号7：インシデントレポートが非常に増加しており、努力の成果が上がっていると思う。

項目番号8：一つの病棟内でインフルエンザ患者が6人発症したことがあったが、ICTのチームが早期に介入し、新たな入院患者の制限等を行ったことにより被害を拡大することなく収束できた。

項目番号9：自動支払機の更新・増設を行ったことにより、待ち時間の短縮に効果があった。

項目番号11：医療連携室と医療相談室の執務室を統合し、より医療情報の相談体制に関してフレキシブルな対応ができるようになった。

項目番号12：患者図書室プロジェクトを実施しているNPO法人医療の質に関する研究会に応募したところ当選した。NPO法人医療の質に関する研究会から寄贈した患者図書室は全国で約40の病院にあり、岐阜県では初めてと聞いている。昨年度にその準備を進め、当該NPO法人から3年間にわたり約700冊の図書を寄付して頂く予定で、今年4月から患者図書室としてオープンしている。

項目番号14：今年も患者満足度調査を1月に実施し、昨年よりも点数が上昇した。少しずつではあるが患者さんの満足度は増している。

#### 【下呂 山森理事長】

項目番号2：昨年度は皮膚科の常勤医師を一人確保できた。それに伴い収入も月100万前後だったものが500～600万円に増加した。患者に迷惑をかけないという点では非常勤の医師でもよいが経営面も考慮すると常勤の医師がいないと成り立たない。何とか医師を確保したいとやってきたので、「IV」の自己評価とした。

項目番号3：協力型の臨床研修病院として昨年度も多くの研修医がきてくれた。当院における研修医は、昨年度も今年度も定員2人をフルマッチすることができた。

項目番号4：認定看護師については、当院の規模から各分野1人ずつぐらいと考えている。今年度も一人合格した。人数的には多くないが、各分野カバーできるようにやっている。

項目番号9：外来患者数が減ってきているため、待ち時間なしのパーセンテージが非常に高い。しかし、多くの外来患者を受け持っている医師については、待ち時間が発生してしまうこともある。

項目番号10：患者サービス向上委員会では、ご意見箱に投函された患者からの情報は全て院内掲示している。最初のうちは食事、給食の内容が非常に多かったが、当院の意見や考え方をフィードバックすることで減ってきている。

項目番号11：当院において医療相談件数は多いが、苦情はかなり少ない。私のところに上がってくる苦情は年間1件あるか否かである。

項目14：ご意見箱の苦情、意見に対しては、その対応等についてフィードバックしている。また、昨年度は、寄付金を活用してマンモグラフィー乳がん検診を無料で行った。これについて募集したところ41名の応募があったため、ピンリボンキャンペーンデーだけでは足りず応募頂いた全員に対して一週間かけて実施した。

#### 1ブロック 質疑応答

【富田委員】放射線部門において、職員6名を採用して2交代制にしたのは非常に画期的であるが、増員した職員は全員放射線技師なのか。また、夜勤の回数は変わらないのか。外来のCT・MRIの予約は何時くらいまでやっているのか。CT・MRIの稼働をもっと増やせる可能性はあるのか。

【多治見 原田理事長】6人とも放射線技師である。夜勤の回数は変わっていない。CT・MRIは、緊急の患者などで時間がずれ込むと22時くらいまでは動いているが、遅い時間帯の予約は実施していない。CT・MRIは一週間待ちになっている場合もあるが、もっと稼働を増やせる可能性はある。

【富田委員】初診と再診の患者で待ち時間は変わってくると思うが、業務実績報告書に記載しているのはこういった数字なのか。

【総セ 渡辺理事長】区別せず平均した数値である。

【清島委員長】多治見病院において、カルテ開示の件数が増えているがこの要因は何か。

【多治見 岩田副理事長】大部分はB型肝炎訴訟のための開示である。診察に不信感を持って開示を請求するというのはごくわずかである。

#### 2ブロック 法人説明

【総セ 渡辺理事長】

項目番号18：当センターは高度先進医療を提供する急性期病院であり、患者の受け入れ及び治療後の回復及び療養等について、地域医療機関との連携は非常に重要であると考えている。その意味でも表にある「紹介率、逆紹介率」は、基準を達成し、さらに上昇傾向にあるなど、地域医療支援

病院の役割を果たしていることから「IV」の自己評価とした。

項目番号21：輪番制など地域医療にも参加する一方、救命救急センターでは「断らない医療」を掲げ、二次、三次及び複数診療科にわたる重症症例を受け入れ救急医療の完結を実施した。

項目番号22：循環器内科と心臓血管外科が共同で心臓血管系疾患を治療し、平成22年度から開始した腹部及び胸部大動脈瘤ステントグラフト挿入術をはじめとする高度医療を提供した。

項目番号23：母とこどもの総合的な高度医療を提供するため、母とこども医療センター、新生児医療センター及び小児医療センターへと機能を再編し、ヘリコプターや救急車による緊急母体搬送を受け、24時間体制で多くの患者を受け入れた。

項目番号24：地域がん診療連携拠点病院として、がん治療だけでなく地域の医師等の参加を得て、がん治療の質向上に関する活動についても積極的に取り組んだ。また、がんの在宅及び入院患者やその家族を対象とした「ほっとサロン」を平成23年度まで月1回の開催であったが、平成24年度は平日毎日開催することで、在宅医療などの相談に積極的に対応している。

項目番号25：女性特有の疾患に対し、「女性病棟」を設置しており、プライバシーの保護や社会的、心理的配慮により安心して治療が受けられる環境づくりに取り組んできた。診療体制の充実に継続的、積極的に取り組んでおり、目標の達成はできたものと考えている。

項目番号26：昨年度の中期計画の変更の際にもご説明したが、重症心身障がい児病棟は、平成27年度開設を目標として、基本設計及び実施設計を行っており、今年10月には建設工事が着工できるように進めている状況である。また、小児救急への取り組みとして、小児集中治療室（いわゆるPICU）であるが、小児循環器内科・小児心臓外科病棟の20床のうち、2床を改修し、本年5月から本格的な運用を行っている。

#### 【多治見 原田理事長】

項目番号17：紹介率についてはもっと上げたいと考えているが、今は少し止まってしまっている。

項目番号18：件数としてはまだ少ないが、糖尿病のクリニカルパスを新しく始めた。狭心症、心筋梗塞のパスについては、非常に順調であり症例数は増えている。

項目番号19：退院前の医師、看護師、地域のケアマネージャーを交えた合同カンファレンスの開催に非常に熱心に取り組んだため、平成24年度については著明に件数が増えたことから、「IV」の自己評価とした。

項目番号21：名古屋大学の心臓血管外科の教授の交替などの事情により当院も人員が減らされた。

何とか常勤医を確保している状況であり、手術の時には大学から教授、准教授クラスの方に手伝いに来て頂き必要な症例数をこなしている。外科以外の心臓血管治療については順調に進んでいる。

項目番号22：産婦人科医常勤5名というぎりぎりの数字の中で精一杯実施している。前年度以上に数字を上げることは物理的に不可能である。

項目番号23：高精度放射線治療システムを導入したこと、がん地域連携クリニカルパスについて県やがん都道府県がん診療連携拠点病院（岐阜大学医学部附属病院）などとともに、より広域的な運用が可能な県内統一パスを導入し運用を開始したこと、地域がん診療拠点病院として県内で唯一緩和ケア病棟を実施しているということから、「IV」の自己評価とした。

項目番号24：呼吸器内科医師を5名確保することができた。これにより、呼吸器内科全般、結核等について東濃地域の十分な受け入れ態勢ができたと考えている。また、昨年五月から精神科病棟を再開することができたことから、「IV」の自己評価とした。

項目番号25：3年が経過したが順調に数字が伸びている。

#### 【下呂 山森理事長】

項目番号15：当院は田舎にあるので、開業医の先生から事前予約により初診患者を受け付けてきた。しかし、最近は少し少なくなってきた。事前予約をされる先生、紹介状だけの先生が決まってきたためこの数字になった。

項目番号16：昔は、マッサージ師を2人採用していたが、診療報酬上点数がとれないことから退職後は補充していなかった。しかし、昨年度から1名採用して、特に、透析患者の透析中の足つりの予防でリンパマッサージを毎日実施し、患者サービスの向上に取り組んでいる。

項目番号17：飛騨南部は紹介して頂ける診療所が16しかない。10年ほど前に、私が下呂に来たときには、紹介率は約2～3%だったが、現在は30%を超えている。逆紹介率については33%前後で落ち着いている。これを少しでも伸ばそうとしているがなかなか難しい。

項目番号19：当院としては基幹病院として地元と密接にやっている。その中でCKD予防に取り組んできた。連携パスについては、最初に開業医の先生に作って頂き、その後当院で開業医の先生が出来なかったところなどを作成した。これは、県医師会で採用され、かなり評価されている。

項目番号20：以前は東西医学ヘルスドッグという形で県職員を中心に実施していたが、最近は県職員の受診者は少なくなった。平成22年度からは、下呂市民にがん検診を受けて頂こうと始めているが、受診者が少ない。成果が出ていないので、今年度から、また力を入れて進めていきたい。

項目番号21：昔は7000件くらいの救急患者の受け入れがあったが、地元開業医の協力による休日診療所を整備してからは2000～2500件減った。H23年度からは小坂診療所が救急受付を止めたため、その分100件ほど増えている。また、ドクターヘリの転院搬送の件数も増えてきている。

## 2ブロック 質疑応答

【林委員】総合医療センターの小児科の救急外来患者数が大きく増えているのはなぜか

【総セ 渡辺理事長】輪番制の担当の日数が増えたためである。

【林委員】女性患者は、全員女性医療センターに入るのか。

【総セ 渡辺理事長】女性患者の中には、女性病棟が良い方、その他一般の病棟でも良い方がみえ、また満床の場合があるので、全員が女性医療センターに入る訳ではない。

【清島委員長】多治見病院では、去年は心臓外科の医師が少ない状況だったが、現在はどうか。

【多治見 原田理事長】心臓外科は週1、2件の手術を実施し、その都度、大学から約2名の医師に応援に来て頂いている。ただ、緊急の手術への対応が難しい状況にある。

【清島委員長】下呂温泉病院のマッサージ師の採用は非常にユニークでよいと思うが、以前からこういった試みをしているのか。

【下呂 山森理事長】以前は2名採用していたが、リハビリの点数が変わったりして仕事の内容がなくなってきたため、しばらく採用していなかった。しかし、障がい者の雇用の問題もあり1名採用した。どういう仕事をやって頂くのが良いか検討したところ、マッサージをすることになった。

【富田委員】多治見病院の緩和ケア病棟が順調ということだが、岐阜中央病院が20床持っていても十分に回らないのは、看護師が緩和ケア病棟で勤務していると疲弊し一般病床を希望するためと聞いたことがあるが、多治見病院ではどうか。

【多治見 原田理事長】当院も稼働率はそんなに高くない。20床のうち平均で11、12床しか稼働していないため経営的には赤字である。これは看護師不足が原因ではなく、常勤医師の方針において、緩和ケアでありながら在院日数を短くして在宅医療に移行することにより回転率を上げている。患者の30、40%は退院している。

【金山専門委員】下呂温泉病院のマッサージは、透析患者だけでなく他の患者に対しても実施しているのか。

【下呂 山森理事長】 希望する患者に対して実施している。

### 3ブロック 法人説明

【総セ 渡辺理事長】

項目番号35、36：県内医療従事者の育成を図るため、受け入れ体制を整備し、積極的に実習等の受け入れを行ってきた。医学生やコメディカルの実習受け入れ人数は平成23年度に比較して増加しているが、看護学生は県立衛生専門学校の学生数の減少により、減少した結果となっている。救命救急士の病院実習についても積極的に受け入れ、地域医療従事者育成についても貢献できたと考えている。併せて薬剤部学生の認定実務実習も受け入れ人材育成を支援した。

項目番号38、39：当センターでは飛騨地域のへき地医療拠点病院である県立下呂温泉病院、高山赤十字病院、下呂市立金山病院に対し、年間を通して各病院に医師の派遣を行っている。また、平成24年度において久々野診療所や坂内村国保診療所など新たなへき地医療機関への医師派遣を行ったことで、へき地医療への貢献ができたと考え、「IV」の自己評価とした。

【多治見 原田理事長】

項目番号27：昨年度から診療報酬委員会を設置しDPC等のデータの分析を実施した。その結果、医療収益がかなり増大した。色々な分析をして対策を講じた努力の成果であることから、「IV」の自己評価とした。

項目番号31：病院全体として質の高い医療を目指しており、医師の研修等にも力を入れた。東濃地区全体で研修医の確保には苦戦しているが、当院では定員の9名をフルマッチすることができた。

項目番号34：表を見ると年々人数が減っているが、多くの救急救命士は研修等を終了しており対象者が減っているためである。

項目番号35：精神科を再開したため当院が主体となって精神科関連の様々なカンファレンスを定期的に開催し情報交換等を行っている。地域に非常に貢献できていると考えている。

項目番号36：国保上矢作病院へ毎週定期的に医師を派遣している。

項目番号38：大規模災害時にも迅速に対応できるように必要な資器材を補助金などで整備している。これらを倉庫に保管しておくだけでは意味がないので、実際に資器材を開き、使用するまでどれくらいの時間を要するのかを把握するために資器材展開訓練を実施した。

項目番号39：災害派遣医療チーム（DMAT）は従来1チームだったが、医師の増加により2チームに増やすことができた。



【下呂 山森理事長】

項目番号24：当院には地域医療研究研修センターがあるが、なかなか研究ができていないことから、「Ⅱ」の自己評価とした。

項目番号31：地域と交流のための講習会、救急救命士との連絡会・勉強会、さらには地域医師会と合同した勉強会は毎月一回実施していることから、協力関係は非常にうまくいっている。

項目番号28：臨床研修医については、昨年度も今年度も定員2名をフルマッチすることができた。当院には後期研修医がいないが、前期研修を終了した1人が当院で勤務してくれた。

### 3ブロック 質疑応答

【清島委員長】総合医療センターの診療材料についてコスト削減を行ったとあるが、それに伴う弊害はないのか。

【総セ 渡辺理事長】診療材料のコスト削減については、各診療科とミーティングを行い進めている。また、他病院がその診療材料をいくらで買っているのかを調べて、メーカーに交渉するという流れで実施している。

【富田委員】多治見病院では、災害のための訓練を行ったとあるが、具体的にはどのようなことを実施したのか。

【多治見 原田理事長】例えば、簡易ベッドを広げてどのくらいのスペースが必要なのか、それに伴う時間はどのくらい必要なのかといったことを調べた。

【清島委員長】総合医療センターでは、昨年は若手医師や後期研修において海外研修を進めていたが、現在も継続しているのか。1回の研修期間はどのくらいなのか。海外で研修をしている医師のポストは非常勤なのか。

【総セ 渡辺理事長】現在も継続して常勤の身分のまま2人が海外研修に行っている。1回の研修期間は約2年ぐらいである。1人は3年目に入っている。

【富田委員】岐阜市民病院からは、毎年、4名程の医師が下呂温泉病院で地域医療研修を受けているが、もっと受け入れ人数を増やすことは可能か。

【下呂 山森理事長】岐阜市民病院から来られる医師は、東洋医学を希望する者が多い。しかし、東洋医学は1カ月に1名しか受け入れられない。その他では余裕があるが。

#### 4ブロック 法人説明

##### 【総セ 渡辺理事長】

項目番号45：多様な採用形態に取り組み看護師の人員不足の改善、医療クラーク、病棟等看護クラークの採用による労働環境の改善に取り組んだ。また、平成27年度開設を目標とする重症心身障がい児病棟の建設・運営を円滑に推進するために新棟建設企画監を新設する組織改正を行った。

項目番号50：先ほどの項目番号45の「効率的かつ効果的な組織体制の構築」で述べた、医療クラーク及び病棟等看護クラークについて計画を大幅に上回る採用をすることで、医療職サポートシステムの強化及び充実を図ることができた。また、医療クラークの大幅採用により、「15：1医師事務作業補助体制加算」の取得ができることから、「IV」の自己評価とした。

項目番号52：人事評価制度検討委員会にて制度の基本設計や詳細設計を検討し、当センター独自の人事評価制度を構築し、職員及び評価者への説明を実施したことから、「IV」の自己評価とした。

項目番号54：平成23年度に診療材料の登録件数を見直し、約9000件に減少したことにより効率的な管理が図れるようになった。また、診療材料に対する価格交渉を継続して実施することで、約600万円の費用削減ができたことから、「IV」の自己評価とした。

項目番号56：緊急搬送時もしくは入院時からの医療相談員の早期の介入、退院時の未払防止対策、クレジットカード決済など医療費の支払いやすい環境づくりに努めた。また、発生後の回収が困難な未収金については、引き続き弁護士法人に回収業務を委託することで回収実績を上げている。そのほかにも、診療委員会に未収金対策部会を設置し、病院全体で未収金の発生防止に取り組み、約170件の未収金発生件数が減少したことから、「IV」の自己評価とした。

項目番号57：平成22年度、平成23年度に引き続き、収入の確保において大きな加算である総合入院体制加算について、表にあるとおり、各数値の確保により、順調な収益体制を確立できたことから、「IV」の自己評価とした。

##### 【多治見 原田理事長】

項目番号45：昨年度、女性医師2名に短時間勤務制度を適用した。今年に入って1人増え3人になった。

項目番号46：リハビリテーション科に専従の医師を配置し土曜診療を開始した。これによりリハビリ全体の収益が上がった。さらには、在院日数の短縮にも効果があると考えている。例えば、祝日で土日と3連休となるような時には、3日間入院していてもリハビリが休みになってしまうが、土曜診療を開始したことにより2日間の休みで済むため回復途上の患者には非常に効果がある。また、夜勤専従看護師を募集したところ、今年の1月から1人だけではあるが勤務している。

項目番号49：コンサル会社と業務委託し制度の構築に向けて検討している。

項目番号51：病院経営にコンサルタントを活用し医療機器の購入について複数年契約、清掃業務を集約化、効率化するなどで相当の費用を削減することができた。

項目番号53：未収金の滞納者宅への訪問を8月と12月に集中して実施した。この時には職員を滞納者宅へ訪問させ未収金の回収とともに、職員の教育、意識改革も併せて実施した。

項目番号54：薬品等について契約方法を見直し節減をすることができた。

**【下呂 山森理事長】**

項目番号43：アウトソーシング実施せず、独自で行うことにしたので、「Ⅱ」の自己評価とした。

項目番号39：幹部会議に組合職員の代表者に出席して頂き、病院の経営状況等の共有を図ることとした。

項目番号40：昨年度、産婦人科の医師が病気になったことから産科病棟を閉鎖せざるを得ない状況となったため、その人員を各診療科へ随時派遣し活用を図った。

項目番号41：非常勤職員について、週30時間の早出、遅出勤務を試行的に実施した。これにより、看護助手の勤務時間が長くなり1.5～1.6人分の人員を削減することができた。

外来受付業務について、アウトソーシングから非常勤職員に行わせる変更をしたことによって、これまでは看護師が診療場所への案内業務を行っていたが、受付でその対応が可能となり効率的な運用ができるようになったことから、「Ⅳ」の自己評価とした。

項目番号47：未収金発生の予防に力を入れている。その結果、以前は1000万円くらい欠損処理をしていたが、現在は500万円くらいになった。それをさらに減らす努力をしているが、なかなか難しい。

**4ブロック 質疑応答**

**【富田委員】** 総合医療センターの人事評価制度について、プロポーザル方式で選定したということだが、これはBSCみたいなものか、業者のオリジナルのものか。

**【総セ 渡辺理事長】** 業者はオリジナルと言っているが、データをみたところ色々な病院と提携して会社が蓄積したものだった。

**【清島委員長】** いつから本格実施するのか。

【総セ 渡辺理事長】まずは、事務部門及び看護師やコメディカル部門から試行を実施する予定である。看護部では実質人事評価のようなことはしてきたので、あまり難しくはないと思う。業者からの提案の中には、看護師が医師を、医師が他の職種を評価するといったものがあるが、これについては十分に検討する必要があるため直ぐには実施しない。色々とアレンジしてやり易いように実施していこうと考えている。また、医師についても今年度は3つの診療科について試行を実施する予定である。

【富田委員】未収金回収については、どこの病院も苦労してやっていると思う。弁護士事務所へ回収業務を委託することは、効果はあるか。

【総セ 渡辺理事長】効果はある。

【清島委員長】未収金滞納者は大きな金額を滞納している人が多いのか、小さな金額を滞納している人が多いのか。

【多治見病院 岩田副理事長】両方である。

#### 5ブロック 法人説明

【総セ 渡辺理事長】

項目番号59：中期計画の期間の最終年度までに目指すことにしている指標として、経常収支比率は100%以上に対して平成24年度において、103.1%と黒字に転換した。また、職員給与対医業収益比率は50%以下の目標に対して47.2%を達成している。また、当センターで指標としている材料費対医業収益比率については、30%以下に対し27.9%を達成し、すべての指標の目標を達成したことから、「IV」の自己評価とした。その下の3-1決算については、医業収益が予算に対して約12億7千万円の増収となった。一方、医業費用も約3億5千万円の増加となったが、資本支出が約4億6千万円の減少となったことから、支出全体では予算とほぼ同程度となった。収支計画については、年度計画に対して医業収益が約13億円の増収となった。要因としては1日あたり平均診療単価の上昇、平均在院日数の短縮、病床利用率の向上、手術件数の増加によるものと考えている。その結果、総利益における約4億円の赤字計画であったものが、約5億3千万円の黒字へと転換した。

項目番号60：職員の就労環境の向上を図り、昨年度に比較して医師、看護師の増員に加え、医師クラークを10人増員し、病院職員の勤務環境を改善することができたことから、「IV」の自己評価とした。

項目番号67：平成24年度については確実に償還を実施した。表にもあるように平成25年度以降についても厳しい状況ではあるが、確実に償還できるよう引き続き業務運営に努力する。

【多治見 原田理事長】

項目番号55：収入に関しては予算に比べて医業収益が大幅な増加となった。支出に関してはほぼ予算通りであったため結果として大きく増益となった。予算に関しては近所の多治見市民病院が新しく病院を作った影響で患者がどの程度減るのかを考え作成したが、後から見ると患者さんは増える結果となった。救急車の数や開業医からのCT、MRIの画像依頼は減っているが外来患者、入院患者が増えたことで予想以上に収益が上がったと考えている。総利益は8億6000万円ほどとなり、翌年度繰り越しも昨年度にくらべて大きく増加したことから、「IV」の自己評価とした。

項目番号58：育児部分休業制度の活用を推進し、7名の看護師が利用した。また、看護師の就労環境を改善するため、新規に夜勤専従看護師を1名採用した。

項目番号61：放射線治療システムに加え、正面玄関ロビー等の改修を行った。当院は、次期中期計画で診療棟を新しく建築することを視野に入れているため、今回の改修工事については必要最小限で実施した。

項目番号62：法人として岐阜県に対し負担する債務の償還を確実に行った。

【下呂 藤枝理事】

項目番号52：予算、決算に関して、昨年の12月から翌年の3月まで産婦人科医が体調不良で産科病棟閉鎖ということがあった。そうした関係上収入は伸びず、24年度から新病院の建設工事にかかっており経費の方は増えていくという関係で経常収支比率94.4%、職員給与費対医業収益比率79.2%となり計画を達成することができなかった。収支計画については純利益△1億7400万円の計画に対し、結果△2億4800万円ということで計画を達成できなかった。翌年度への繰越金については30億円の予定であったが31億円確保することができた。これらの理由から、「II」の自己評価とした。

項目番号56：6月から月2回だが土曜保育を開始した。毎回、利用者があり確実に使っている。

項目番号58：下呂看護専門学校に当院から8名専任講師として出向させて看護師の育成にあたっている。

項目番号59：新病院の医療機器整備を見据えて24年度についてはできる限り整備を抑制する形をとった。予算の1億7100万に対し6500万円の執行に抑えた。ただ、そうした中でも電動リモートコントロールベッドのように年次計画にあるようなものについては確実に執行している。

項目番号60：新病院建設工事については、現在、最上階の5階の外壁工事を実施しており、順調に進んでいる。

項目番号61：計画通り償還している。

#### 5ブロック 質疑応答

【林委員】多治見病院は放射線技師6名を採用するなど職員を増員しているにも関わらず、給与費について計画に比べ実績が減少している。どのような工夫をしたのか。

【多治見 岩田副理事長】職員の増員分を考慮して年度計画を策定している。実績値が計画を下回ったのは、職員や医師事務作業補助者の増員などにより業務の効率性が上がり、超勤が減ったことが大きな要因である。

【林委員】下呂温泉病院の新病院建設について、様々な変更が出てくると思うが、その予算措置は考えているのか。

【下呂 藤枝理事】変更は既に出てきているが、追加するところや削除するところがあるため金額的にはそれほど変わらない。しかし、工事設計（実施）の関係で見直しをする必要があり、その増加分については自己財源で対応する予定である。

【富田委員】契約の見直しなどで経費の削減を行ったとあるが、それは表の中では経費の部分に反映されてくるのか。

【多治見病院 岩田副理事長】経費の部分である。

[報告事項：報告資料イ～エ]

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター、地方独立行政法人岐阜県立多治見病院及び地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院の平成25年度年度計画について